

—アールエフ社員 管理部野里がゆく—

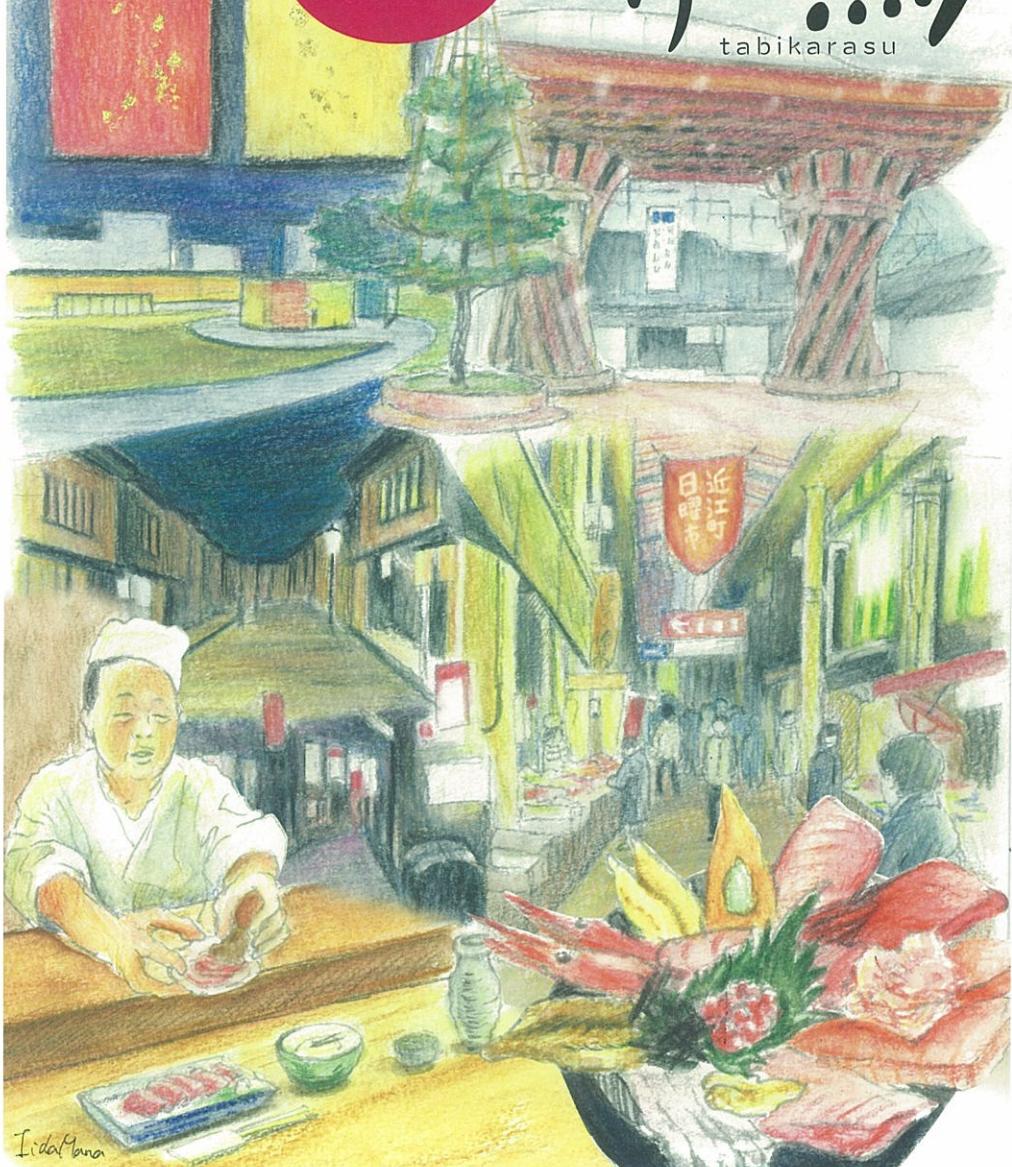
アールエフ  
店舗街道

—Vol.2 金沢編—

長野発

# ひと旅

tabikarasu



— アールエフ社員 管理部野里がゆく —

長野発  
アールエフ  
店舗街道  
-Vol.2 金沢編-

# 旅鳥とは?

tabikarasu

「長野本社・管理部 野里」がアールエフの店舗

がある街を旅し、偶然出逢った人・場所などを

気ままに綴った、撮った、散歩日記。

今回は、今年オープンを迎えるアールエフ金沢店

の周辺を「しっかり、おっとり、うっかり」の

かりかり女子三人が旅をする。



今日は私達も  
お供しました!

やざわ あみ  
(アールエフ  
長野本社勤務 広告部)

長野市出身。  
石川・富山で4年間暮らす。  
北陸は第2の故郷。



イラスト／Iida Mana  
(アールエフ  
長野本社勤務 広告部)

3~4才頃から  
絵を描くことが好き。  
趣味は美術館巡り。

【プロフィール】

野里ふーが

ukkanri

(アールエフ長野本社勤務 管理部)

学生の頃から旅好き＆無駄に歩くの大好き。最近は休日の度に山にこもりがちで、人より動植物とのふれあいが多くなる。それを見かねてか、社長より街中レポートの仕事を賜る。「自由に書いておいで」の一聲を真に受け、時々店舗や事業所へ出向いては好き勝手しているが、普段は本社管理部でてんぱった毎日を過ごしている。





しっかり、おつとり、うっかり、かりかり女子三人の旅鳥 ..... 4

しっかり女子もだんまり決めた数千万円 ..... 4

おつとり女子がデジカメに描いた水彩画 ..... 6

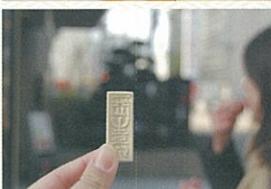
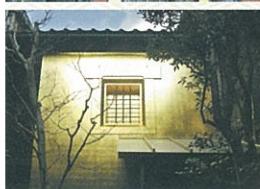
雪国信州っ子が浅雪の兼六園をさまよう ..... 7

「飲み屋横丁」三女子いっぽしの飲兵衛を装う ..... 8

くんくん食い物求めて三ちゃりが飛ぶ ..... 9

「百万石の姫」夢はタダとばかりにぐうすか、 ..... 11

実はちゃっかり者だった三姫



# KANAZAWA 金沢

日本海

直江津で  
乗り換え

妙高1号

金沢

野々市

長野

金沢。この二字が並んだとたんに贅沢な色彩が浮かんでくるから不思議。箔で描かれた蒔絵がゆらゆらとどこまでも漂い、つややかな漆器、鮮やかな陶器、上品な和菓子がそれぞれに輝きを放つ。そんな空想に半分浸り半分はまだ夢の中で、集合場所の長野駅に到着した。今回の旅は、しつかり、おつかり、うつかりの3名で構成されている。しかもしつかりさんは北陸通。乗り換えがあるけれどそんな訳で今回は無事に到着できる。うつかりは安心して2人と合流し、直江津行き妙高1号に乗り込んだ。

しつかり、おつかり、  
うつかり、  
かりかり女子三人の旅鳥  
だんまり決めた数千万円

金沢。この二字が並んだとた

んに贅沢な色彩が浮かんでくるから不思議。箔で描かれた蒔絵がゆらゆらとどこまでも漂い、つややかな漆器、鮮やかな陶器、上品な和菓子がそれぞれに輝きを放つ。

そんな空想に半分浸り半分はまだ夢の中で、集合場所の長野駅に到着した。今回の旅は、しつかり、おつかり、うつかりの3名で構成されている。しかもしつかりさんは北陸通。乗り換えがあるけれどそんな訳で今回は無事に到着できる。うつかりは安心して2人と合流し、直江津行き妙高1号に乗り込んだ。

直江津駅で特急に乗り換えて  
金沢へ向かった。駅で仕入れた鮭めしに気を取られながら、小雪舞う薄灰色の空、冬枯れた白い平野と黒い日本海を眺めてきた。だからなおさら、到着駅で仰ぐ雪のない青空が意外だった。暖かいねと

それぞれ言い合う間に、しつかりさんはタクシーを見つけささつと手配を進めていく。



▲小雪舞う直江津駅

今日は金沢を歩く前に、1つ大事な頼まれ事を済まさなくてはいけない。まもなく金沢店に生まれ変わった物件引渡しの大詰め、銀行で全員集会。ここ野々市市へやつてきたのはそのためだ。一部始終を長野とつなぐから大丈夫と分かつてはいるものの、数千万というお金が動くと聞けばやはり落ち着かない。冒頭に、「お遣いで来ました」とあらためて念を押し席につく。あとは成り行きを見守り、終了を待つた。途中、こちらの固い表情をほぐすように「僕の名前、イニシャルがRFでね、この話を聞いたらときになんだか縁を感じたんですね」と、独特のイントネーションで話してくれた優しい表情が今でも脳裏に浮かぶ。この旅で出会った、最初の笑顔。

さて、と気が済んだところで外へ出ると雪が舞っていた。不動産



緊張の小部屋から開放されて次に向かつたのは引渡しを終えたほやほやの金沢店。イオンが近く道も広い。それぞれ思いおもいに見て回る。かつてレストラン

だつた店内は、こげ茶の腰板と白壁で統一されている。床には赤いカーペットが敷かれ、入り口のメニューボードにも当時の気配がそのまま残されている。このがらんとした暗く殺風景な室内も、デザイナーでもある2人の目にはすでに完成後の明るい店舗に見えていたかもしれない。かつてドッグランやパークスペースだった空間はどう生かされていくんだろう。自分の想像力ではまったく追いつかない。

屋さんが金沢駅まで送るよ、と当たり前のよう声をかけてくれる。こちらもまた、近所の兄さんであるかのように遠慮もわざかに乗り込んだ。

おつとり女子がデジカメに  
描いた水彩画

15分ほどのドライブで車を降りた。駅から遠ざかる兄さんを見送った後、荷物もあるし、まずはホテルのチェックインを、と反対

側の東口へと向かう。

通路を抜けた途端、なんとも豪快で堂々とした門が目に飛び込んだ。駅から遠ざかる兄さんを見送った後、荷物もあるし、まずは

おつとり女子はカメラにあらゆるもので楽しいものが多く映っている。いよいよ雪が強くなり気温が冬らしくなると、一気に体が冷えてくる。各々カメラをしまい足早に取り入れてるんだよ、と解説してくれるのは北陸通。見所をきつちりおさえていてくれる。透明感

到着した宿は、立地のいい香林坊のホテル。和の色調にモダンな



▲金沢駅前正面に構える鼓門と松



が水を連想させる駅舎へのアプローチに、学問も芸術も好んだ利家（鼓門）と、両脇に等間隔で配置された植え込みの松（まつ）。

多分そういうことじやないかなあとひとり思い楽しむ一方で、おつとり女子はカメラにあらゆるもの

を収めている。きっと独特の目線で楽しいものが多く映っている。いよいよ雪が強くなり気温が冬らしくなると、一気に体が冷えてくる。各々カメラをしまい足早に移動を始めた。



走れ!

金箔のオブジェ。和洋うまく溶け込んだ、というかスタイリッシュと呼ぶのか、さりげなく金沢の贅を織り交ぜたシンプルさがしつくりくる。一応仕事で来ている。が、ただ寝るだけの場所とは割り切れないーいと庶民感覚が訴えて離れず、ちょっと長めの休憩を入れることにした。

## 雪国信州つ子が 浅雪の兼六園をさまよう

再び集合し歩き始めたのは夕暮れのすこし手前。目的地は特に決めていない。地図を広げ、まずはホテルから大きく一周して名城古刹を巡ることにする。歩行者信号を前に「走れ！」と名の付いた躍動感に満ち溢れた像、保存されながら文化交流の場として今も

金箔のオブジェ。和洋うまく溶け込んだ、というかスタイリッシュと呼ぶのか、さりげなく金沢の贅を織り交ぜたシンプルさがしつくりくる。一応仕事で来ている。が、ただ寝るだけの場所とは割り切れないーいと庶民感覚が訴えて離れず、ちょっと長めの休憩を入れることにした。

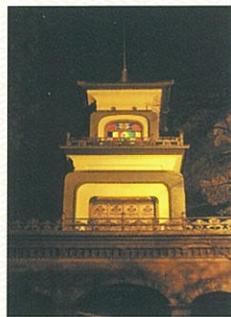
現役の赤レンガ建築。なんとなく歴史の若い順から追っていくと、最後に金沢城の石垣が見えてきた。しかしこの石垣、視界の開けた散歩道から見ているのに一辺の終わりがはつきりしない。百万石がどれほどの単位かは今ひとつピントこないけど、少なくとも百万石の主のスケールとはこういうものなんだと腑に落とし、先へ進む。交差点に着く。目の前には兼六園、右の信号を渡った後に21世紀美術館があるという。美術館あつた。この近距離にこの建物。時代のギャップを2人はすんなり受け入れているので、自分も何もない振りをして入館した。白と透明の美術館。芝生の庭も広く開放的な空間だけど、建物は無機質で時の流れを感じない。「今」を切り取る

場所だからか、この違和感はなんだと思っていてけれど、館内で愛すべき天才たちの感性に触れたらどうでもよくなつた。空間に奥行きと色彩を与えるのは作者自身、建物は主張しない、という主張。そういうことにして、作品になつてそこに並ぶまでの、子供達が夢中で遊んだ時間想像した。仕事柄の習性か、始終デザイナー2人の言動が面白かった。



美術館を出るとすっかり日が暮れていた。再び、今度は照明に浮かぶ金沢城の堀を愛で、兼六園へと架かる橋を見上げた。厚みある、白くきれいな橋だった。

◀夜は落ち着いた雰囲気のひがし茶屋街



▲尾山神社中門(神門)。明治期オランダ人による設計。

一転落ち着いている。木製の格子から漏れる店の明かりが雪で濡れた石置を照らし、しつとり静かな歩きを楽しめる。気持ち穩やかに、そのまま主計町（かずえまち）茶屋街まで向かつてみた。路地に入っては行き止まり、戻っては別道を探して、浅野川に沿う暗い鏡花のみちを歩き続けた。

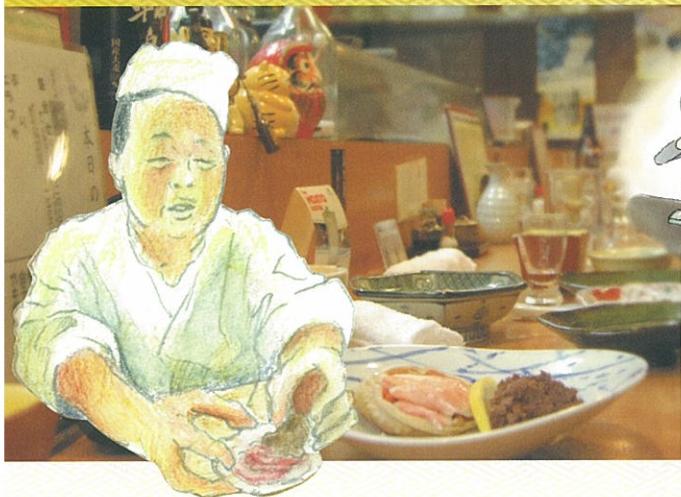
たどり着いたのは香林坊のメイン通りから少し入った所。金沢中央味食街の片隅に、昭和の面影を残す一角が見える。小さな店が肩を寄せあう長屋横丁だ。入り口も天井も、小さく低い。店の看板は不恰好にやや大きく、また目線が近い為かやけに明るい。目を細めて奥に進み、薦められた店を見るとあいにくの満席だった。おすすめなだけある。店内ちら見で、主人の趣味らしきフィギュアが所狭しと並ぶのが見えた。

門前払いに少々肩を落とし、そ  
うは言つてもやつぱり諦め切れな

### 「飲み屋横丁」三女子 いっぽしの飲兵衛を装う

そろそろお腹がいい時間、ここだけは、と決めていた長屋を目指す途中で、一同気になる建造物を見つけたので行つてみる。由緒正

天井も、小さく低い。店の看板は不恰好にやや大きく、また目線が近い為かやけに明るい。目を細めて奥に進み、薦められた店を見るとあいにくの満席だった。おすすめなだけある。店内ちら見で、主人の趣味らしきフィギュアが所狭しと並ぶのが見えた。



い長屋呑み、空いている店を探し腰を下ろした。まずは加賀の殿様の名がついた日本酒で「おつかれさまーん。」この小さな空間で、受けた注文をすぐに忘れてしまうおじいちゃんを見守りつしまして歓談し、おじいちゃんの昔話を聞いた。

長屋を後にして次に向かったのは、こちらもおすすめされた一軒。無事入り口を通過し上着を脱いだ。席につき、しつかり女子がおしい日本酒を尋ねると、店の大将は石川の酒をすすめ、常連さんは富山の酒がいいと言った。まずは大将を立てて石川から。お通しは香箱ガニの寄せ。自分が美味しいと思うものに自信を持つていて、大将、香箱ガニのよさをとことん語る。その言葉から、値段じゃないんだよ、いいものはいいんだよ、

は、こちらもおすすめされた一軒。無事入り口を通過し上着を脱いだ。席につき、しつかり女子がおしい日本酒を尋ねると、店の大将は石川の酒をすすめ、常連さんは富山の酒がいいと言った。まずは大将を立てて石川から。お通し

は香箱ガニの寄せ。自分が美味しいと思うものに自信を持つていて、大将、香箱ガニのよさをとことん語る。その言葉から、値段じゃないんだよ、いいものはいいんだよ、

と、何にも左右されない芯の強さを感じる。また、この少しおせつかいな常連さんも、やっぱり自分が信じるものをするてくれる。最後まで富山の酒にこだわり、そして、やっぱり旨かつた。せつかく来たんだからこれも食べてみな、と大将にすすめられるまま、また自分達の興味の向かうままに金沢の味覚を味わった。みんなのおすすめは大正解。ほろ酔いでいい夜を過ごした。

### くんくん食い物求めて 三ちやりが飛ぶ

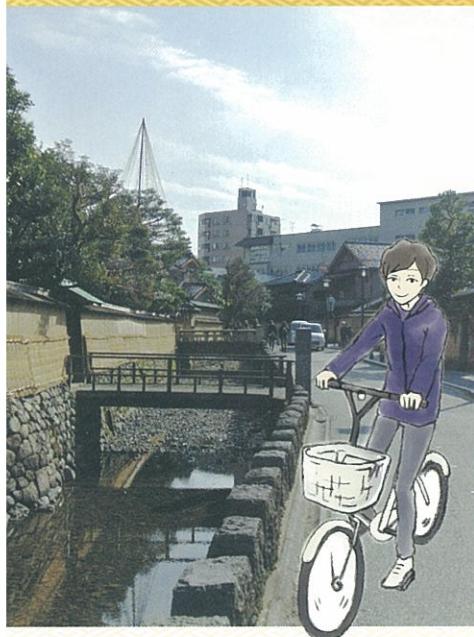
二日目、遅めの朝食をとりチエックアウトを済ませる。昨日聞いた和菓子めぐりをしようとして、長町の武家屋敷跡方面へ。きれいに整備された小川を見ながら歩くと先に

駐輪場が見えてきて、磁力に引かれるように寄つてていく。「まちのり」ができるらしい。さっそく手続きを済ませて出発する。昨日は距離感がつかめずタクシーを利用した分、どの道をどう走ったかよく覚えていない。慣れない街を歩けば迷いもするけれど、それもまた楽しみのうち。そして今日は自転車を得たから解決は早い。空の機嫌も上々、気分も上がる。自転車

をちやりちやりしながら甘くて美味しいお店からお店へ、今度はミツバチになつて寄つていく。3匹横一列、ショーケースに張り付いて試食をおねだりする。そういえば、食の細いおつとりさんが、昨日の大将のお店では元気に食べていたなあと思い出した。この麩まんじゅうのお店でも、もう我慢できないと言わんばかりに即買いし、その場で開けていた。その姿をしつかりさん

と眺めながら、自分にはこんな好物あつたつと考えてみた。  
古い町並みを軽快に滑りながら、野村家屋敷を覗き足輕資料館に寄り、「ペダルが動かない」との

アクシデントもなんのその、加賀棒茶の店先を過ぎ泉鏡花資料館に寄つた後、今度は明るく賑わう昼のひがし茶屋街へ着いた。自転車は本当に気持ちがいい。天気に恵まれればどこまででも行ける気がする。「まちのり」は各ポイントに駐輪スタンドがあり、いつでも交換・乗り継ぎ・返却ができるから、疲れた時だけて気楽に手放せる。かくて足軽は馬を降り、気楽にお輿を呼んで近江町市場へと向かつた。



▲野村家屋敷の庭



のんびり長野県民が人波に揉まるのは年に一回、善光寺の2年参り(=初詣)ぐらいなので、威勢のいい市場の中では完全にのまれてしまう。元気な2人はそれでもバタ足してもらっている。力二を触り、おばちゃんにかぶら寿司安く売つてとお願いし、ついでに市場内でおすすめの食事処を聞いていた。遅い昼食に選んだ、驚くべきボリュームの海の幸もまるでひるまず平らげて、また市場の荒波の中を出口に向かって進む。その

道中には、見た事のあるようなないような、色鮮やかな魚がたくさん並んでいる。きれいだなーと見ていたら、さば寿司のおじさんにぶつかつた。お買い上げ。この台所は誘惑だらけ、いつまでたっても満腹でいられる。

「百万石の姫」夢はタダとばかりにぐうすか・実はちやっかり者だった三姫

き、帰り支度を整える。電車に乗り込み体が温まると、一気に口数が減りみんなの意識も飛んでいく。この2日間、金沢のほんの一度握りを覗き見、触れ、感じた。苔むした寺、名峰白山の遠望も温泉も、振り返ると心残り。けど、きっと何度も行つても同じ後悔を残す、金沢はそんな魅力多い場所。新幹線が走り出し自動改札に変わる頃、また空を仰ぎに行つてみようと思う。

(タイトル「見出し」は当社社長の丸山次郎が後から書き足しました)





アルエフは全てが観光地 ご家族で遊べる店舗です

【今回のピックアップ店舗】

**R金沢(アルエフ金沢店)**

〒921-8801

野々市市御経塚 2-31

現在改装中、4月末開店



アルエフ 本社・中央研究所 〒380-0935 長野市中御所岡田町3 TEL:026-225-7711 FAX:026-225-7717 www.rfslab.com

店舗・事業所・研修施設(歯科助手研修など) 札幌 | 仙台 | 郡山 | 須賀川 | 大宮 | 東京 | 八王子 | 横浜 | 長野 | 斑尾 | 諏訪 | 新潟 | 金沢 |

名古屋 | 大阪 | 神戸 | 倉敷 | 広島 | 松山 | 福岡 | 鹿児島 | 沖縄 | ミシガン | NY 2014年2月現在

Jcmp\_140303\_N\_Mi\_reporKanazawa